

講義コード	11C0128805	授業形態	演習	事前登録の有無	なし	担当教員	王在喆	開講期	通年
科目名	ゼミナールⅡ(王)					王在喆	通年		
履修前提条件						備考			
授業の目的	ゼミナールⅡでは、グローバルの視点で問題発見、問題解決の手法を習得することを目指している。今年度の研究課題は日本と中国の産業構造についての比較分析である。具体的には、戦後日本の経済成長と対比しながら、「改革・開放」以降の中国経済の変化について、産業構造変化の側面から数量分析を行う。今年度の勉学目標は、まず、産業連関分析の理論および産業連関表の見方を勉強し、次にMs-ExcelのVBAなどを用いて産業連関分析モデルの分析方法を学習する。そのうえで、日中産業連関関係を計量的に分析する。学習および研究の成果をゼミナール論文としてまとめ、経済学部ゼミナール大会で発表することも予定されている。因みに、履修者と相談したうえで、上記以外の研究課題を決めることも可能である。								
到達目標	①産業連関理論と産業連関表の読み方を勉強することができる。 ②産業連関モデルの計算方法を習得することができる。 ③日中两国経済の変化を構造的に数量分析することができる。 ④グループで学習や研究の成果をゼミ論にまとめることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修： ①参考文献を読むこと。 ②Ms-ExcelのVBAの操作方法を学習すること。 サブゼミやゼミ合宿などの時間も含めて120時間以上の授業外学修時間が必要になる。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】国民経済計算(SNA)1 【第3回】国民経済計算(SNA)2 【第4回】国民経済計算における産業連関表の位置づけについて 【第5回】産業連関表の読み方 【第6回】地域産業連関表1 【第7回】地域産業連関表2 【第8回】国際産業連関表 【第9回】中国の産業連関表 【第10回】産業連関モデル1 【第11回】産業連関モデル2 【第12回】産業連関モデル3 【第13回】産業連関モデル4 【第14回】産業連関モデルの計算1 【第15回】産業連関モデルの計算2 【第16回】産業連関モデルの計算3 【第17回】ゼミ論指導1 【第18回】ゼミ論指導2 【第19回】ゼミ論指導3 【第20回】ゼミ論指導4 【第21回】ゼミ論指導5 【第22回】ゼミ論指導6 【第23回】ゼミ論指導7 【第24回】ゼミ論指導8 【第25回】ゼミナール大会発表準備1 【第26回】ゼミナール大会発表準備2 【第27回】産業連関論と企業理論 【第28回】産業連関論とケインズ経済学 【第29回】産業連関論と外国貿易 【第30回】予備日								
成績評価の方法	授業への取り組み：20%、授業内発表：40%、ゼミ論作成など：40%。								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書	『産業連関分析入門』新飯田宏(東洋経済新報社)1978、『中国の経済成長：地域連関と政府の役割』王在喆(慶應義塾大学出版会)2001、『産業連関分析入門:ExcelとVBAでらくらくIO分析』藤川清史(日本評論社)2005、『産業連関分析入門』宮沢健一編(日本経済新聞社)2002、『産業連関論入門：新しい現実分析の理論的背景』森嶋通夫(創文社)1956、『日中連関構造の経済分析』王在喆・宮川幸三・山田光男(勁草書房)2016								
教員からのお知らせ	①教科書は受講生と相談したうで決めた。 ②「計量経済学」、「経済統計」の履修が望ましい。								
オフィスアワー	時間：水曜日6限目(18:00-19:30) 場所：2号棟511研究室								
その他									